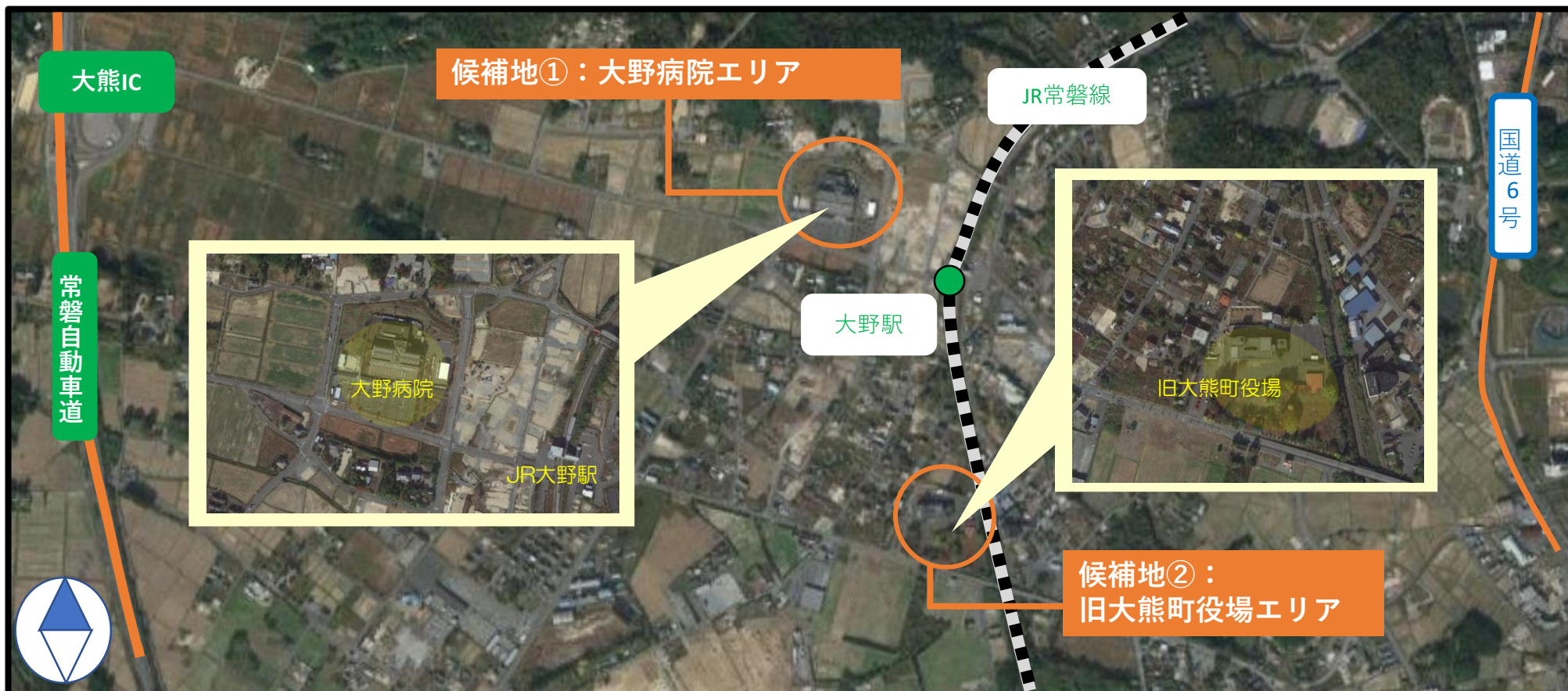


- 大熊町から、まちづくり計画対象外の公有地のうち、「大野病院エリア」と「旧大熊町役場エリア」の2箇所の候補地の提案があった。
- 私有地のみで一団の土地を確保することは、整備に時間を要する可能性があるため、候補から除外した。
  - ・宅地は、用地交渉に必要な地権者が多くなる可能性があること。
  - ・郊外の土地は、上下水道などのインフラ整備が新たに必要になること。
- 中核的病院に要する建物や敷地の面積については基本計画において決定するが、中核的病院の病床規模を250床前後とすることとしており、大野病院（150床で敷地面積26,000㎡）よりも広い面積が必要となる可能性がある。そのため、候補地の検討においては敷地拡張の可能性を考慮する。

### 【候補地の位置関係】



交通アクセスの利便性や用地の拡張可能性の良さから、『候補地①：大野病院エリア』を選定する。

【候補地の評価検討】

|       | 候補地①：大野病院エリア      | 候補地②：旧大熊町役場エリア   | 概要           |
|-------|-------------------|------------------|--------------|
| 所在    | 大熊町大字下野上字大野98-1   | 大熊町大字下野上字大野634   | 同じ大野地区       |
| 現況・底地 | 大野病院(県有地)・公園(町有地) | 旧大熊町役場・公民館等(町有地) | 公有地(県有地・町有地) |
| 面積    | 約33,000㎡          | 約35,000㎡         | 30,000㎡以上    |

| 評価項目          |        | 概要                            | 概要                            | 評価                     |
|---------------|--------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------|
| 1 交通アクセスの利便性  |        |                               |                               | 候補地①を評価                |
| 道路ネットワーク      | 常磐自動車道 | 大熊ICまで約2km                    | 大熊ICまで約3km                    | 車での移動を想定し、同等と評価        |
|               | 国道6号   | 約1.8km                        | 約2km                          | 車での移動を想定し、同等と評価        |
| 公共交通          | JR大野駅  | 約200m                         | 約600m                         | 徒歩での移動を想定し、駅に近い候補地①を評価 |
| 2 土地環境の状況     |        | 上下水道などのインフラが整備されている           | 上下水道などのインフラが整備されている           | 同等と評価                  |
| 3 防災性         |        | 土砂災害警戒区域外、津波浸水想定区域外、洪水浸水想定区域外 | 土砂災害警戒区域外、津波浸水想定区域外、洪水浸水想定区域外 | 同等と評価                  |
| 4 拡張可能性(用地取得) |        | 農地が多く、住宅が少ない                  | 宅地が多く、住宅が多数                   | 候補地②は住宅が多く、候補地①を評価     |

## 現病院の状況

- 令和2, 3年度に建物調査を行った結果、建物の構造上の大きな問題は確認されなかったが、外壁の一部に損傷が生じており、補修が必要な部分がある。
- 建物内部には、内壁・天井・床にカビ、天井に屋上からの漏水と考えられる漏水跡、仕上材剥離といった損傷が発生している。
- 現施設を利用する場合、スケルトン解体工事を行った後、内装改修・建具改修・外壁改修工事を行うとともに、10年以上使用されていない電気設備・機械設備の更新が必要となる。また、配管も更新が必要となる可能性が高い。
- 免震構造ではない。



タイル浮き・クラック・剥離

鉄筋爆裂部



天井漏水跡、仕上材剥離

内壁・天井カビ発生



### 現病院を大規模改修する場合の問題点

- 設計や整備の際に様々な制約がある
- 中核的病院は250床前後とすることとしており、現在の大野病院（150床）は手狭になる。

現病院のスケルトン解体・大規模改修・免震工事、増築棟の建築工事が必要

※新築と同程度以上のコストが想定される



既存施設を改修して利用するよりも、設計や整備の自由度が高い新築とし、既存施設は解体する。

## 整備スケジュール(想定)

開院時期は、令和11年度以降を想定

|                     | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | R11年度以降 |
|---------------------|------|------|------|------|------|-------|---------|
| 基本構想                | →    |      |      |      |      |       |         |
| 基本計画                |      | →    |      |      |      |       |         |
| 調査、基本・実施設計          |      |      | →    | →    | →    |       |         |
| 現病院解体(設計含む)         |      | →    | →    |      |      |       |         |
| 造成、建築工事<br>(外構工事含む) |      |      |      |      | →    | →     | →       |

※ 250床規模の病院を整備する場合の現時点の想定スケジュールである。

